

平成18年11月末現在

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

1 学年当たりの適正な学級数

(ア) 市部、町村部の高校のそれぞれの望ましい学級数

教育の機会均等と高校教育水準の維持向上という視点が不可欠であり、そのためには教員配置を重要な条件として考えることが必要。

市部・郡部とも学校配置を見直しながら、生徒の入学状況や地域性をなどを考慮することで基準を分けて考えると、以下のような学校規模が望ましい。

市部 4～8学級

町村部 3～4学級 最低限2学級

分校 どうしてもやむを得ない所のみ特色を持たせて存続させる

(イ) 普通高校、職業高校、総合学科の高校のそれぞれの望ましい学級数

市部

普通科（進学校）・・・6～8学級

普通科・・・4～6学級

総合学科・・・4学級以上

職業学科・・・4～8学級

町村部

普通科・・・3～4学級 最低2学級

総合学科・・・4学級以上

職業学科・・・4学級以上

普通科と職業学科と総合学科の在り方

(ア) 普通科、職業学科、総合学科の目指す役割

・ 普通科

各教科の基礎学力や広い教養を身に付けさせるとともに上級学校への進学に対応できるようにする。

・ 職業学科

地域社会の現状（産業構造や雇用状況等）を考えると、普通科を優先する視点には問題がある。将来の県全体のニーズからも、農工商はそれぞれの地域で必要がある。

・ 総合学科

職業選択に向けたキャリア教育として、社会人講話、職場体験、志望の職業に合わせた科目選択、進路志望に向けた研究で、キャリア教育を実践する。

(イ) 全県的視野での普通科、職業学科、総合学科の地区毎の募集割合

生徒、保護者が選ぶ学校は全県一区であるため、市・郡部について全県的視点に立って再編の検討が必要がある。割合は自然に決まるので、学科等の見直しを進める中で自然的に学級減を行うのが理想的である。しかし、保護者・生徒から圧倒的に指示される普通高校を増やす等、何らかの方向性を打ち出しても良いのではないか。普通科を漸増してはどうか。

適正な学校規模を実現するための方策

(ア) 全県的視野での統廃合の必要性と可能性

- ・ 統廃合以外の選択肢

これまでのように、非常に活気のある市部の大規模校を削って郡部の学校を残す方法は問題がある。

また、統廃合を議論した場合、市部に厚く郡部を切り捨てる方向に流れがちであるが、教育の格差を起こさないために郡部をどうするか十分配慮する必要がある。

高校教育が特定の市町村のための教育ではないことや、先生達が生徒達をきちんと教育できる条件づくりをすることを念頭に置くと、今の学校数を残し、学級数を減らしていく方法は、正常な高校教育ができなくなることから、統廃合以外の選択肢がないのはやむを得ない。

(イ) 統廃合の進め方

- ・ 統合による新しいタイプの高校の可能性

学級数が増えることは、教員配置が増えたり、生徒の活動費が増えるといったメリットは考えられものの、新たな建設又は設備整備には経費がかかるといったデメリットが考えられる。

また、学校にはそれぞれ伝統があること、生徒の質が違う、ということも単純には解決できない問題もある。

以下、次回以降協議予定

適正な学校規模を実現するための方策

(イ) 統廃合の進め方

- ・ 統廃合基準を設定するのか

(ウ) 地区毎の学校配置

校舎制の今後の方向性

定時制の今後の方向性